

## 移住・定住促進へ 「福島移住促進実行会議」発足



↑「福島移住促進実行会議」の関係者ら

7月9日（金）、東京電力福島第一原発事故で避難区域が設定された12市町村への移住・定住の強化を図るため、「福島移住促進実行会議」が発足されました。

会議の中で遠藤町長は、「避難されている方々がふる里にまた戻って生活をしたいという思いを捉え、帰還と移住定住の施策に取り組んでいきたい。」と述べました。

実行会議では、定期的に会合を開き、各市町村の施策の進捗や課題を共有してまいります。

## 広野町・議会が合同で 平沢勝栄復興大臣へ要望書を提出



↑平沢勝栄復興大臣へ要望書を提出

7月8日（木）、広野町と広野町議会は合同で、東京都内の復興庁を訪問し、平沢勝栄復興大臣に要望書を提出しました。要望事項として①第2期復興・創生期間における支援体制②保険税（料）および医療費の一部負担金などの免除に対する財政支援③高速道路無料措置の継続など28項目の要望事項について、町民の皆さまの生活再建や町の復興に向けた国の積極的な支援を求めました。

## 双葉地方町村会、双葉地方町村議会議長会が 内堀県知事へ要望書を提出



↑内堀県知事へ要望書を提出

7月16日（金）、双葉地方町村会と双葉地方町村議会議長会は、福島県庁を訪問し、内堀福島県知事に要望書を提出しました。帰還困難区域の方向性や国際研究開発拠点の双葉郡内への設置や東京電力福島第一原発で発生する処理水の処分の正確な情報発信、万全な風評対策などの国への要請などを双葉地方の復興・再生が成し遂げられるまで対応するよう要望しました。

## シンポジウム「福島復興と国際教育研究 拠点に関する地域対話」が開催



↑シンポジウム「福島復興と国際教育拠点に関する地域対話」の様子

7月4日（日）、広野町と協定を締結している早稲田大学が地元のふたば未来学園と「福島復興と国際教育拠点に関する地域対話」と題したシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは地域社会と国際教育研究拠点による福島復興に向けた協働の可能性について、浜通りの地域社会の皆さんと国・県の関係者による活発な意見の交換が行われました。

## サッカー男子オーストラリア代表 Jヴィレッジで調整



↑練習に汗を流すオーストラリア代表選手

7月3日（土）、東京五輪サッカー男子に出場するオーストラリア代表は、事前合宿を行っているJヴィレッジで全体練習を始めました。3日までに選手15人、スタッフ15人が集まり、選手はランニングやパス回しなど軽めのメニューをこなし、体調を整えました。

オーストラリア代表は、7月22日の1次リーグC組初戦で、広野町が復興「ありがとう」ホストタウンになっているアルゼンチン代表と対戦しました。

## プレミアム付き商品券が販売開始



↑特設販売会の様子

7月17日（土）、18日（日）の2日間プレミアム付ひろの商品券が広野町中央体育館で発売が開始されました。販売初日と2日目は、中央体育館を特設販売会として販売され、多くの方が商品券を購入する姿が見られました。

今年度のプレミアム付商品券は、昨年に引き続きプレミアム率を50%とし、1セット1万円で1万5千円分を利用することができ、1人当たり6セットまで購入することができます。利用期間は、令和4年1月16日（日）までとなっております。

## 学校法人開智学園「開智望小・中学校」 フィールドワークにおける講義の実施



↑広野町の復興状況について説明する遠藤町長

6月29日（火）、茨城県にある学校法人開智学園「開智望小・中学校」の児童、生徒70名が被災地における復興状況を学ぶため、広野町に来町し、遠藤町長が、児童・生徒に対して町の被災状況や復興状況について説明しました。

児童、生徒からも当時の被災状況や「教育の丘」に建設されたこども園やふたば未来学園について質問があり、一つひとつ丁寧に答えました。

学校法人開智学園との交流は、昨年に引き続き2回目となります。

## 学校法人沼津学園への感謝状贈呈式



↑杉山理事長（左）と遠藤町長（右）

6月8日（火）、遠藤町長は、広野町役場全員協議会室において学校法人沼津学園杉山盛雄理事長（静岡県議会議員6期）へ感謝状を手渡しました。

学校法人沼津学園桐陽高校と飛龍高校の生徒は、平成27年6月より東日本大震災に係る復興支援として仮設住宅に支援物資を届けるとともに広野町東側地区に100本の河津桜の植栽を行うなど定期的に維持管理に訪れ、町民との交流を行っており、これまで継続的にご支援をいただいております。